

学校関係者評価 報告書（国際高等課程）

大阪YMCA国際専門学校  
校長 山根 一毅

文部科学省による「専修学校における学校評価ガイドライン」の評価項目に沿い、本校では、専門課程及び高等課程別に、より教育内容と目標に合ったものに改めて、自己点検・自己評価を実施しております。  
2024年度分は、自己点検・自己評価、在校生・在校生保護者、卒業生・卒業生保護者アンケートを2025年3月に実施しました。それらに基づき、下記日時に開催した「学校関係者評価委員会」において、以下の評価と意見がありましたことを報告いたします。  
今後はこれらの意見、助言を踏まえ、よりよい学校運営と教育活動に努めてまいります。

開催日時 2025年7月16日（水）／9月8日（月） 14：00～16：00  
開催場所 大阪YMCA国際専門学校 505教室

【学校関係者評価委員】学校関係者 7名

国際こども学フォーラム事務局 代表
元大阪府立高校校長
LLPチーム経営研究所 代表
立命館大学 特任教授、神戸市「育てる教育相談」実践事業アドバイザー
学校法人大阪YMCA監事、元私立高校校長
国際学科元教員、前私立中学校校長
本校アドバイザー、元高等専修学校教頭

【事務局】9名

大阪YMCA国際専門学校 校長
大阪YMCA国際専門学校 副校長 2名
大阪YMCA国際専門学校 高等課程長
大阪YMCA国際専門学校 国際学科 学科長
大阪YMCA国際専門学校 表現・コミュニケーション学科 学科長
大阪YMCA国際専門学校 国際学科 主任
大阪YMCA国際専門学校 表現・コミュニケーション学科 主任
大阪YMCA学校法人本部 事務局長

総括

自己点検・自己評価・外部アンケート（在校生・卒業生・保護者）は全体的に高い評価となっている。自己点検・自己評価では「国際交流」3.5、「生徒の受入れ募集」3.3、「法令等の遵守」3.2「生徒支援」3.2「教育理念・目的・育成人材像」3.1「教育活動」3.1と高評価である。一方で、11のうち5つの項目で、表現・コミュニケーション学科（以下「表コミ」）が国際学科より0.5ポイント以上高い評価となっており、学科間で大きな差が見受けられた。国際学科は分析的・批判的思考が強い教職員が多く、それが強みであると同時に、生徒が大きく変化したこと、達成できていること等を過小評価しがちな部分があり、今後学校における成果や実績を、教職員間で共有する時間やシステムを強化する必要がある。

「生徒支援」に関しては、在校生91%・卒業生90%が「相談に応じてくれる」と回答し、保護者からも在校生保護者93%、卒業生保護者100%と非常に高い評価が得られた。複数担任制や週1回の生徒支援会議、カウンセラーや特別支援教育コーディネータとの連携など、体制が整っていることが評価の背景にある。ただし、支援の手厚さが教職員の負担増につながっている点は課題であり、外部機関やボランティアの活用が今後の改善方策として挙げられる。

外部アンケートでは特に保護者からの評価が高く、「この学校に入学させてよかった」との回答が在校生保護者94%、卒業生保護者100%に達した。教職員の親身な対応や理念の浸透が信頼につながっており、生徒と保護者双方の安心感を支える大きな要素となっている。生徒自身については、「遅刻・欠席」の自己評価が低めに出ているが、不登校経験者が多い背景を踏まえると、補講や面談を通じた改善の取り組みが成果を上げていると考えられる。

総じて、教育活動や生徒支援は高く評価され、保護者・卒業生からの信頼も厚い。一方で、国際学科の自己評価の低さや教育環境の課題、教職員の負担増といった側面は今後の改善点である。学校としては、成果の「見える化」や情報共有体制の充実を進め、学科間の差を縮小するとともに、引き続き生徒中心の教育活動を推進していくことが必要である。

学校関係者評価委員会資料 NO.1

\*4段階 4-そう思う 3-ある程度そう思う 2-あまりそう思わない 1-思わない

評価項目	自己点検・自己評価		学校関係者評価	
	平均	評価項目総括	平均	学校関係者評価委員からの意見
(1) 教育理念・目的・育成する人材像	3.1		3.8	
1-1 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	3.5	1-1 教育理念、方針について「適切に伝えられている」が「そう思う、ある程度そう思う」が在校生・卒業生保護者共に100%と高評価であり、理念・方針に対して共通理解のもと、学校運営を実施できている。	3.9	保護者に伝わっていることは評価できる。卒業生、在校生の評価では「入学して良かった」が「そう思う、ある程度そう思う」が在校生88%、卒業生80%と高評価であり、満足していることが伺える。

1-2	学校における人間教育その他の教育指導等の特色は明確か	3.4	1-2 YMCAの「精神・知性・身体」の調和の取れた全人教育の理念を本校の教育理念としてパンフレットやホームページに明記し、生徒には学校説明会やオリエンテーションにて伝え、日常の学校生活の中でも何度もスクールモットーについて振り返る場を設けている。	3.9	
1-3	社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3.0	1-3 不登校の生徒数増、日本語指導が必要な生徒数増など社会のニーズに対して様々な支援・対応をしている	3.8	
1-4	学校の理念・目的・育人人材像・特色・将来構想などが生徒・学生・関係業界・保護者等に周知がなされているか	2.9	1-4 昨年度より数値はあがっているが、国際学科の育人人材像等の周知についての評価が低い。スクールモットーは十分周知されているが、なんのために必要なのかという「教育理念」について、再度教職員間で思いを共有し、考え合う時間を設けていく。	3.5	左記について、質問「学校の理念・方針（スクールモットー）を理解している」への回答は、国際学科在校生・保護者とも肯定的な意見が80-100%と非常に高く、生徒・保護者には十分浸透していることが伺える。「関係業界」というのは専門課程を意識した文言なので、次年度は関係機関等に変更した方がよい。
1-5	各学科の教育目標、育人人材像は、学科等に対応する分野のニーズに向けて方向づけられているか	2.9	1-5 「教育内容は『人』として育つ内容になっているか」に対して、昨年に引き続き在校生保護者98%、卒業生保護者97%が「そう思う、ある程度そう思う」と回答している。国際学科は外国籍の編入生が安心して入学できる数少ない学校の1校である。	3.7	左記の質問は、YMCAの特長である全人教育を反映した良い質問であり、またそれに対して十分評価を受けている証である。高等専修学校として教育目標、人材像が時代にあっているか、YMCAらしさがあるかを常に確認し運営ができています。
(2) 学校運営		3.0		3.5	
2-1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	3.1	2-1 運営方針、意思決定機能は明確であり、ボトムアップでスタッフ自身が考え評価する機会が多くある。今後もより丁寧に行っていく。	3.8	
2-2	運営方針にそった事業計画が策定されているか	3.1	2-2 法人全体での10年単位のビジョンに基づき3か年の中期事業計画を立て、学校の年度単位の事業計画を策定し、各学校運営ができています。	3.8	
2-3	組織運営上有効な意思決定が行われているか	3.0	2-3 事業計画は理事会や評議員会で意思決定され、学校法人経営会議および運営会議がそれを受けて具体的な運営を行う。各課程・学科責任者が部門の目標、役割を明確にしつつ部門同士の連携を図りながら運営し、所属スタッフは責任者より示された職務分掌に従い目標を理解し、役割と責任を果している。	3.3	2-3,4 今年度から新しく追加した質問が、それぞれ3.0、3.3と高い評価を得た。特に2-4については両学科とも高い数値で、「学校運営に参加できている実感がある」ことを教職員のモチベーションとして大切にしている本校の運営の特徴が十分反映されたと考えられる。
2-4	運営会議や判定会議等、必要な意思決定に自分が参加できている実感があるか	3.3	2-4 昨年度より、より具体的な質問内容に変更したことで、スタッフが自分事として評価をすることができ、評価が上がった。安心して意思決定のプロセスに参加できていることが分かる。	3.5	
2-5	人事、給与に関する規程等は整備されているか	2.5	2-5 職員の採用・人事・研修（一部非常勤対象）等に関しては本部事務局が、また非常勤者等の採用や人事に関しては各学校が管轄している。就業規則等の情報は共有されているが、理解するまでに至っていないことが分かる。就業規則はほぼ毎年改訂されている。	3.4	
2-6	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3.1		3.4	
2-7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3.3	2-7 自己点検・自己評価、学校関係者評価および財務情報はホームページで公開。日常的な教育活動もホームページやInstagramで発信されている。InstagramをHPと連動させることで、昨年度より評価もあがり多くの方に情報が届くようになっている実感がある。	3.5	2-7 情報公開の項目の評価が高評価である。「さくら連絡網は有効に使われている」に在校生保護者100%、卒業生保護者97%が「そう思う、ある程度そう思う」と回答している。小まめな情報発信と以前紙で配布していたものをデータ送信に変更したことで、どこでも確認できる利便性が評価に繋がっている。
2-8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	2.8	2-8 本部事務局のICT室で全事業所の業務管理と効率化を図るとともに、本校でICT専門の専任教職員を置き、部門の事情・特徴に応じ対応している。Googleを利用した情報システムツールを使用し、より効率的に仕事が遂行できている。業務効率をあげるための研修をICTが得意な現場スタッフが担当し、シリーズで実施している。スタッフ全体が効率化を考え仕事を遂行しており、昨年2.6より向上した。	3.3	
(3) 教育活動		3.1		3.6	
(目標の設定等)					
3-1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3.1	3-1 「教育カリキュラムはわかりやすいものになっているか」に在校生保護者93%、卒業生保護者100%が「そう思う、ある程度そう思う」となっており、高評価を得ている。	3.9	
3-2	教育理念、育人人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3.0	3-2 日頃から言語化して伝えていくことで、教職員の中で共通理解が得られている。教育理念等に沿った教育課程の編成・実施等は、それを具現化するために編成している。生徒層の変化により、高校卒業後の専門課程の学科設置の必要性を感じ、検討している。	3.5	3-2 生徒層の変化によって、課題が多様化し、修業年限での対応が必ずしも十分とは言えない現状がある。卒業後の進路の確保が課題である。また、業界のニーズという文言が高等課程には合っていないため、次年度は削除すべきではないか。
(教育方法・評価等)					

3-4	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3.0	3-4 「卒業後の自立を見据える」「地球市民」という日頃意識している言葉で2022年度よりアンケート調査を行ったことで、具体的にイメージできたこと、コロナ危機以前の行事が実施できたことが評価の良い要因と考える。	3.4	せ、ゴールを明確にし、カリキュラムの見直しを毎年行っている。そのことが、今年度の3.0という高い評価につながっている（昨年度2.7）。
3-5	卒業後の自立を見据え、地球市民として生きていくためのカリキュラムや教育方法の工夫・開発が実施されているか	3.2	3-4,5,6 時代のニーズと生徒たちの構成にあわせ、ゴールを明確にし、カリキュラムに反映させている。カリキュラムは毎年見直しを行い、時代のニーズに対応している。「授業のカリキュラム・内容に満足しているか」には在校生保護者85%→89%、卒業生保護者77%→94%が「そう思う、ある程度そう思う」とどちらも2023年度より高評価となっている。	3.7	3-5 質問「多様性を尊重しあえる環境がある」への回答は両学科とも非常に高く、YMC Aの大切にしているインクルーシブ教育が実践できている証と言える。
3-6	教育機関や関係団体との連携により、有意義な教育活動ができているか	3.2		3.9	
3-7	実践的な職業教育（インターンシップ、実習等）が体系的に位置づけられているか	2.9	3-7 質問「進路について適切な相談や情報提供がある」在校生72%。卒業生80%が肯定的な評価である。現在、インターンシップ・実習までは実施していないが、キャリア教育としてゲストティーチャーを呼んだり、キャリアビジョンを考える時間はしっかりと持っている。	3.6	3-7 今年、評価が下がっている。現在十分な進路・職業教育ができていることを考えると、「インターンシップ・実習」という表現ではなく、キャリア教育・体験の機会があるか等にとどめておくのが良いのではないかと。
3-8	授業評価の実施・評価体制はあるか	2.6	3-8 きちんとした評価の基準ができていない。教員同士の授業見学や授業公開は行っているが十分ではなく、評価基準を作成することが必要である。	3.3	
3-9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3.2	3-9 成績や進級の基準は各学科とも学務要項や進級判定会議で明確に示されている。今後、教職員間での十分な共有が必要である。	4.0	
	(資格試験)				
3-10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか（P検・漢検・英検）	3.1	3-9 英検やIELTSなど英語資格の取得が授業でも積極的に進められているが、低い評価になっている。実績について、進路担当者だけでなく学科全体で成果を共有し、適正な評価ができるように努めていく。	3.5	
	(教職員)				
3-11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	2.9	3-11 教員の持つ資格や経験を重視している。その結果、魅力ある授業を行うことができている。	3.3	「人」として育てることを意識している教職員が育ってきているように感じる。働きやすさ、チーム力など人を大切にするシステム、働き続けたい職場作りを行うことが大切である。学科の特色を理解し具現化できる教職員が自分らしく働く中で、生徒が育まれていくのである。
3-12	関連分野における研修や教員の指導力育成などの資質向上のための取組が行われているか	3.1	3-12 多岐にわたる専門職を育成している機関との連携がとれており、採用に繋がっている。募集活動は責任者が行っている。大学と連携し、実習生の受け入れを行っており、適性のある学生をリクルートしている。法人全体で、採用計画を立て、採用を行っている。	3.3	質問「クラス担任、教職員は信頼できる」への在校生の評価が高い。生徒と教員の信頼関係の高さが伺える。
3-13	教職員の研修等が行われているか	3.5	3-13,14 昨年に引き続き、高い評価を得ている。教職員の研修は、職員と専任教員に対しては大阪YMCA全体で年二回の安全研修、年一回の人権研修がそれぞれ実施されている。高校生事業として年間で研修計画を作成し、救急法や対象理解の研修を実施した。高等課程主催の一般教職員向けのセミナーや他団体が実施するカウンセリング研究会やモデル校見学、教員研修等には積極的に参加するよう案内をしている。	3.3	3-13 自己評価の数値が非常に高い。研修の効果を教職員が体感していることが伺える。
3-14	適切な時期に適切な学校行事を実施できているか。また、生徒が主体的に参加できているか。	3.4		3.9	3-14 グループ活動や学校行事への生徒の評価は非常に高い。生徒自身の主体的な活動とするための担任団の丁寧なサポートと環境設定が、高い評価に結びついている。
3-15	学校内外の活動の情報提供を行なっているか	3.5	3-15 さくら連絡網についての質問には、保護者はほぼ100%が有効であると回答。昨年の評価を受け、配信のタイトルの統一や情報を早く配信するなど改善した成果と言える。学校内外の情報をタイムリーに提供する努力が続けている。	3.9	3-15 「学校行事以外でも生徒が活動できる場が充実している」に「あまりそう思わない・そう思わない」と答えた人が減少した。（在校生保護者26%→18%）広報委員会などのボランティア活動やクラブ活動、海外研修を実施できたことが評価に繋がった。
3-16	保護者会等と連携した活動を推進しているか	3.3	3-16 「保護者会の頻度・情報提供が適切か」について在校生保護者98%、卒業生保護者94%が「そう思う、ある程度そう思う」となっている。	3.5	
(4) 学修成果		3.0		3.5	
4-1	進路決定率が90%を超えているか	3.5	4-1 進路決定率の向上について、本校では、課程の特色にもとづき、進学希望者には大学担当者（国内・海外）、専門学校担当者、職業訓練校担当者が、生徒一人ひとりの希望に応じて、進路指導を計画的に実施している。	3.6	
4-2	資格取得率の向上が図られているか	2.8	4-2 3-9同様、英検やIELTSなど英語資格の取得が授業でも積極的に進められているが、低い評価になっている。実績について、進路担当者だけでなく学科全体で成果を共有し、適正な評価ができるように努めていく。	3.2	
4-3	退学率が5%以下であるか	2.6	4-3 複数担任制を導入し、ホームルーム、ショートホームルームで日々の様子を把握し、生徒の学習および学校生活の情報を教職員が連携して共有することにより、退学率を抑えるよう努めている。	3.6	4-3 国際学科については退学者が発生する事象が続いたため、自己評価が低くなっている。教職員間での、実際の退学率数値の共有・確認が必要である。

4-4	学習の定着が図られているか	2.6	4-4 2023年度は3.3あった平均が2024年度は2.6となった。国際学科では特に低い評価が目立ったが、実際の英検やIELTSなどの資格取得率は伸びている。「定着」という言葉が抽象的なため、進路担当教員以外は、学力実績より日ごろ接する生徒の授業「態度」から評価している可能性がある。	3.5	4-4 「学習の定着」という文言については、捉え方の範囲が広いと考えられる。次年度より、「学習習慣」と「学力向上」の2項目に分けて評価するのはどうか。
4-5	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3.4	4-5,6とも昨年より評価が上昇している。表コミでは卒業生に毎年アンケートをとり把握し、またボランティア募集や学校行事の際に卒業生メーリングリストを活用するなど、卒業後も母校とつながれる取り組みを行っている。両学科とも卒業後に相談や報告で卒業生が来校する回数も多く、そうしたリアルなコミュニケーションの中で、卒業後の進路についての情報を常にアップデートできている。	3.4	
4-6	卒業生の卒業後の進路を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3.2		3.5	
(5) 生徒支援		3.2		3.7	
5-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3.3	5-1,2,5,6 国内外大学・専門学校への進学相談をする複数の進路指導担当者として、各クラス担任を配置して、一人ひとりの志望と能力資質に合わせて進路指導と生徒相談への対応を行なっている。	3.8	
5-2	生徒・保護者からの相談体制は整備されているか	3.6	5-2 「教職員は親身に相談ののってくれる」在校生91%、卒業生90%、「いつでも相談できる場所がある」在校生85%、卒業生79%といずれも評価が高い。「進路について適切な相談や情報提供がある」は在校生83%卒業生66%となっている。	3.9	5-2 「お子様には親身に適切に対応している」が在校生保護者100%、卒業生保護者97%となっており、保護者から信頼を得ている成果だと評価できる。日々の様子は担任を通して家庭にお知らせがあり、また担任にすべてを任せるのではなく、週に一度の生徒支援会議などを通して学科全体で生徒を支援している。「生徒間のトラブルの対応」についても在校生保護者91%・卒業生保護者98%、「学校は家庭と連携した生徒支援ができています」在校生保護者96%・卒業生保護者97%であり、高い満足度が伺える。
5-3	生徒に対する分納・延納等の経済的な支援体制を整備しているか	3.6	5-3 分納や延納の制度などが整備されている。	3.8	5-3 分納、延納という文言を今年から入れたことで、スタッフの「経済的支援」についての具体的理解が進み、評価が上がった。
5-4	生徒の健康管理を担う組織体制はあるか	3.4	5-4 保健室を設置し、常勤の養護教諭がいる。また毎年健康診断、レントゲン検診を行っている。生徒の主治医とつながるケースも少なくない。	3.9	5-4 「お子様の健康面での対応は適切になされている」在校生・卒業生保護者とも100%肯定的な評価を得ている。「Safety First」をすべてのプログラムのミッションに置くYMCAの理念が実践されていると評価できる。
5-5	課外活動に対する支援体制はあるか	3.1	5-5 昼休みの体育館利用、またアートクラブや演劇部、BBB（ビビデバビデ部）といった芸術系の居場所づくりを積極的に行っている。	3.7	
5-6	生徒の生活環境への支援は行われているか	3.2	5-6 表コミでは天学生から年配の方まで多様なボランティアが授業や休み時間に生徒のサポートをしている。国際学科では、日本語の苦手な生徒には国語、歴史等は個別に日本語指導を行うと共に、授業による良質な出会いの場を提供している。	3.8	
5-7	生徒の課題や特性にあった支援ができていますか	3.6	5-7 カウンセリングルームを設置し、常勤のカウンセラー、養護教諭がいる。生徒の希望に応じてカウンセリングを実施している。課題や特性をもつ生徒が多いため、合理的配慮のシステムが確立している。総合教育センターとの有機的な連携ができています。またユニバーサルデザインも進めており、校内文章はUDフォントを使用している。	3.9	5-7について、各学科特別支援コーディネーターを設置し、生徒支援会議にてアドバイスを求められることは大きな効果を生み出した。3.6と高評価であり、合理的配慮を実践できていると認識が持てていることが分かる。
5-8	保護者と適切に連携しているか	3.5	5-8 定期的な保護者会がある。表コミは年6回の保護者交流会、国際学科ではPTAを組織している。	3.8	
5-9	卒業生への支援体制はあるか	3.0	5-9 同窓会組織、卒業生の山歩き同好会、ボランティア活動など多岐に渡って卒業生が活動できる場がある。また表コミでは卒業後の二十歳の祝福礼拝を行っており、卒業生保護者からも感謝されている。卒業生同士が再開できる貴重な機会となっている。	3.5	5-9 卒業生への支援体制は両学科共に課題である。特に表コミは過去の不登校経験や発達障害の課題から卒業後上手くいかなくなったという相談も毎年複数あるので、社会資源も活用したネットワーク作りを行い、支援体制を整備することが必要である。
5-10	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	2.8		3.5	5-10 「社会のニーズ」という文言が、すぐに就職につながるわけではない高等課程として、適切なのかどうかは検討する必要がある。
5-11	高校・高等専修学校／専門学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	2.6	5-11 表コミでは、専門学校と連携したキャリア教育の取り組みを始めている。	3.5	
(6) 教育環境		2.9		3.5	

6-1	施設・整備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	2.6	6-1 設置基準に基づき、快適に学習に専念できるスペースと施設・設備を確保、それらの整備状況を常に把握し、使用計画、使用案内を行っている。5年計画で内装や備品の整備を実施。2024年度はPCルーム更新を実施し、ICT環境を改善した。「施設・設備が充実」と回答した割合は在校生83%、卒業生54%で、改善傾向ながら卒業生評価は依然低水準。	3.3	
6-2	生徒の課題や特性（認知の課題・視覚等）にあった合理的配慮、環境整備があるか	3.5	6-2 国際学科では2021年度よりBYOD（一人一台の端末を持参）、表コミでは2024年度よりBYAD（学校管理の一人一台iPad端末持参）を実施している。	3.8	
6-3	学校内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	3.0	6-3 大阪YMCAの各部署（阿南国際海洋センター、アフタースクール、サンホームなど）、また韓国スタディツアーや国際学科の修学旅行的位置づけであるデンマーク交換留学研修など、学校内外での様々な教育機会の提供ができています。	3.6	
6-4	防災に対する体制は整備されているか	2.7	6-4 大阪YMCA全体で作成の「安全管理ガイドライン」に基づいて作成した本校の防災マニュアルに従った要員配置と役割明確化により法令に基づいた防災訓練を行う。従来の火災対応に加え地震津波の想定にも対応した訓練を加えた。要員の異動による変更は毎年確認し、責任を明確にしている。	3.3	6-4 昨年度に引き続き、表コミでは学科単体で夏休み登校日に全校で避難訓練を実施、防災教育の強化を図った。それが、防災体制の整備への表コミでの高い評価につながっている。教職員自身が関わっているかどうか評価に影響を与えるため、国際学科でも受け渡し訓練を含めた避難訓練や防災意識など、防災教育を積極的に取り入れていく必要がある。
(7) 生徒の受入れ募集		3.3	7-1 以下の項目とも3.0を超える高い評価だが、昨年度よりはやや低くなった。	3.7	
7-1	高等学校/中学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みが行われているか	3.4	7-1 本校では、生徒の募集活動について、その内容や手法においては教育機関としての節度を持ち、適正に行うよう努めている。広報に用いるパンフレットやWebサイトは、教育内容、進学状況等が、生徒や保護者の立場からわかりやすく理解できることを常に意識し、作成している。学内における説明会や個別相談に対して、適切な対応ができるための研修を行い、相談後も入学に至るまでのフォローアップも行っている。	3.8	
7-2	生徒募集活動は、適正に行われているか	3.4	7-2 入学選考を適正かつ公平に行うため、入学募集要項に入学選考方法の基準を記載している。	3.8	
7-3	生徒募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3.2	7-3 外部アンケートでは、「この学校に入学してよかった」と回答した割合が在校生91%、卒業生92%と高く、学校選択の満足度、受け入れ募集の成果が裏付けられた。	3.6	7-3 「教育成果は正確に伝えられているか」において国際学科ではやや低い評価となっており、英語力の向上などの教育成果を募集には活かしきれていないと感じている可能性がある。もしくは今年度より学校訪問専属の担当者を配置したこと、教職員が直接中学校進路担当者等に挨拶等で紹介する機会が失われていることから、体感として評価が下がっているとも考えられる。
7-4	生徒納付金は妥当なものとなっているか	3.3	7-4 理事会・評議員会において、各課程・学科における入学金、授業料、実習費等の学生生徒納付金が、学生・生徒の人数、教育内容、教育環境に照らし妥当なものであるかどうかの検討を経て、決定している。	3.8	
(8) 財務		3.0		3.7	
8-1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	2.6	8-1 本部事務局の財務と学校事業本部が連携して、学校の財務基盤について中期計画を立て、執行状況に関しては毎年の理事会・評議員会のチェックを経て財務状況、資産内容や資金内容の管理を行っている。	3.0	
8-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3.1	8-2 予算収支は中期計画、年度計画に基づいて執行し、その妥当性は理事会・評議員会でチェック、予算の問題点や今後の動向について業務組織に対する指摘が行われる。	3.6	
8-3	財務について会計監査が適性に行なわれているか	3.1	8-3,4 昨年より評価が下がった項目。学校評価公開にあたり、財務情報の公開も行っている。年度ごとの理事会・評議員会監事のチェックを経て財務状況、資産内容や資金内容の管理を行っている。	4.0	8-3,4 会計監査・財務情報公開とも、今年度評価は双方とも3.1と高くはあるものの、昨年度より下がった（昨年度3.7、3.6）。会計監査・財務情報公開を適切に実施していることを、教職員全体に周知・共有を徹底することが必要である。また財務状況を説明する際は、モチベーション低下にならないように丁寧に説明する必要がある。
8-4	財務情報公開の体制整備はできているか	3.1	※今後の改善方策 国際学科では一部学費の見直しを実施した。表コミでも引き続き安定した運営ができるよう、学費の見直しを行う。	4.0	
(9) 法令等の遵守		3.2		3.8	
9-1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.3	9-1 本校では、学校事業本部、本部事務局が法律の専門家を顧問として配置し、新制度や規則の制定、各種届出などの際に多角的なチェックを行うなど、法令等を遵守する体制を構築するとともに、学校事業本部、本部事務局への報告を通して運用が適切であるかどうかを検証している。	3.9	
9-2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.3	9-2 2005年以来、大阪YMCAが定めた個人情報保護ガイドラインにもとづき、学校に必要な個人情報の保護を、学校事業本部主導のもとに運用し、毎年の講師会において常勤者・非常勤者ともにそのルールについて注意喚起を行い、個人情報の保護に努めている。評価も高くなっている。	3.9	

9-3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3.2	9-3 全国のYMCA専門学校グループとして2005年から独自の自己点検・自己評価を行ってきた。2008年度から実施と公表の義務化にあわせ、積極的に公開している。	3.6	9-3 毎年、質問項目についての見直しを実施し、状況に則した自己評価を行えるようにしている。
9-4	自己評価結果を公開しているか	3.1		3.8	9-4 自己評価結果は公開しているので本来4.0になるはずだが、3.1となっている。異動などで自己評価を公開していることを知らない教職員がいることが予測される。今後、自己点検アンケート実施の意義と公開していることを教職員に十分に共有する必要がある。
(10) 社会貢献・地域貢献		3.1		3.8	
10-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献（不登校支援など）・地域貢献を行っているか	3.1	10-1,2 本校では、YMCAの特色を活かし、多くの社会活動に取り組んでいる。学校行事としてのボランティア活動はもとより、YMCA全体行事として、また土佐堀地域活動委員会との連携、YMCAのサポートクラブであるワイズメンズクラブとの連携、地元西船場地区との協働や西成や生野（いずれも大阪市）地域、淀川キリスト教病院での社会貢献活動を生徒が行っている。不登校の中学生の学び舎も実施、生徒との交流も行っている。	3.8	10-1 それぞれの学科だけでなく付随事業が行っていることも評価対象であることを教職員に周知していく必要がある。
10-2	生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3.4	また、大阪市や尼崎市から不登校支援事業への委託を受け、3拠点の運営を行うとともに、付随事業として公立学校への研修を実施している。	3.9	
10-3	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	2.8	10-3 オンライン公開講座を実施した。講師派遣、教育機関への巡回相談は例年通り実施した。	3.8	10-3 「教育訓練（公共職業訓練）」の文言が教職員にはわかりにくいいため、何を指すのか文言を変更して明確にするべきではないか。
(11) 国際交流		3.5		3.8	
11-1	外国籍や外国にルーツを持つ生徒も入学しやすい状況か	3.6		3.8	
11-2	YMCAのネットワークを活かした国際交流プログラムを行っているか	3.4	11-1~4 学内に留学生が200人以上いることや、国際学科においては在籍生の中に外国籍、外国にルーツのある生徒が5割、またYMCAインターナショナルスクールをもつ組織であり、世界の120の国と地域にYMCAがある組織という恵まれた環境を生かし、生徒の国際交流も活性化している。	3.9	
11-3	外国籍生徒の学習・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	3.4	国際学科を中心に、デンマークとの交換留学、アジアやニュージーランドでの研修を実施した。「国際交流に満足」と回答した割合は在校生88%、卒業生85%と昨年同様の高評価を維持している。	3.8	
11-4	留学生・外国籍生・海外交流プログラムなど多様性を生かした活動を行なっているか	3.5		3.8	
全体平均		3.2		3.6	